

技術情報カード

No.126

平成23年3月

URL:<http://www.green.pref.tokushima.jp/shinrin/index.htm>



●●●●●
技術情報カード No.126
平成23年3月

徳島県立農林水産総合技術支援センター
森林林業研究所

〒770-0045
徳島市南庄町5丁目69
TEL 088-632-4237
FAX 088-632-6447



囲いわなを使用したニホンジカの捕獲

はじめに

徳島県のニホンジカによる林業被害は、平成元年度以降に顕著化し、平成4、5年度から急激に増加し、平成7年度にピーク(419.2ha)に達しています。その後は、新植地の減少とともに被害面積も漸減し、平成21年度の被害面積は117.8haとなっています。

しかし、未だシカの被害は甚大で、防護柵等種々の被害防除対策を講じていますが、林家の負担は大きくなっています。

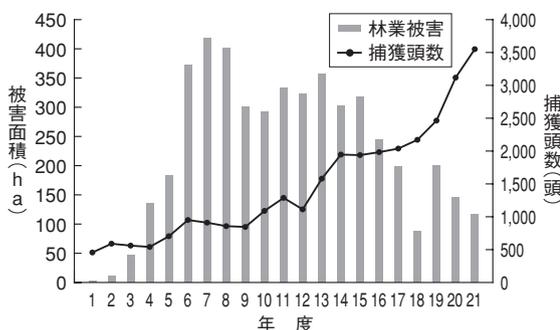


図1 ニホンジカの林業被害と捕獲数

本県では、平成19年4月から「特定鳥獣保護管理計画」(5ヵ年間)を策定し、年間3,800頭の捕獲目標を掲げていますが、捕獲実績は、平成19年度2,468頭、平成20年度3,123頭、平成21年度3,557頭と、い

ずれも目標頭数を下回っています。(図1)

については、効果的な個体数管理を推進することを目的に、徳島すぎを守り育む獣害対策技術の開発事業(平成21~23年度)で実施しています「囲いわなを使用したニホンジカの捕獲」について、近年、森林被害が著しい剣山地域の試験捕獲を紹介します。

1. 囲いわなの試作

1. 囲いわなとは

囲いわなは、法定猟法に用いる猟具として、獲物が餌を銜えて引くことによって、又はその他の装置によって、獲物自ら又は人の操作により獲物を閉じ込めて捕らえるわなで、上面を除く周囲の全部又は一部を、杭、柵等により囲い込むものと定義づけています。

試作した囲いわなは、森林総合研究所九州支所で生け捕り用に考案した「EN-TRAP」を参考に製作しました。

2. わな材料と仕掛け

写真1に示すように、支柱、梁桁などの構造部は、鉄製アングルを使用し、幅2mの両出入口と、奥行き4mのサイドネット柵、天井のない高さ2mの長方体を組み立てました。両出入口の扉ネットとサイドネット柵は、10cm角目のDMネットを使用しました。

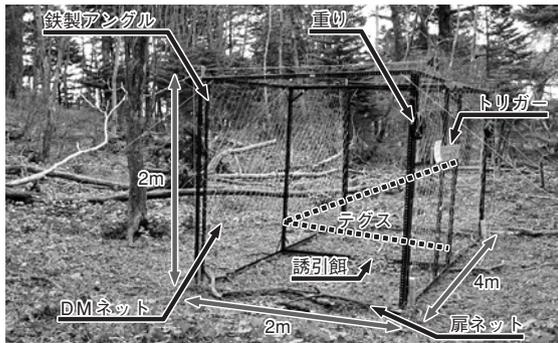


写真1 囲いわな

仕掛け（トリガー）は、囲いわなの中央部に張ったテグ스에シカが接触したら、重りが落下し、両出入口の扉ネットが持ち上がり、閉じ込める方法です。テグスは「板式ネズミ捕り器」に連結し、ネズミ捕り器のバネが跳ね、かんぬきに掛けてある重りと連結しているロープが外れるようになっています。

3. 誘引餌

誘引餌は、シカのみを選択誘引する必要があり、取り扱いが容易でコスト、鮮度、におい、栄養面で優位なハイキューブ（アルファ草の固形）を採用しました。

2. 捕獲の実際

1. 調査地と捕獲までの工程

調査地は、事前に設置場所選定要因（①獣道2つ以上、②傾斜20°以下、③糞塊数10以上、④摂食痕、⑤林縁部）に適合する候補地を数カ所ピックアップしました。囲いわなの設置は、シカの利用域や誘引状況等を勘案して、お花畑と西島駅東の2カ所を選定しました。捕獲までの工程は、写真2に示すように、5月1日から15日間の餌付け、わなの設置、30日間のわな馴らしを経て、トリガーをセットしました。



写真2 捕獲までの工程

場所の選定と餌付け 15日 【餌付け】
 囲いわな設置 【囲いわな設置】
 囲いわな馴らし 【トリガーセット】
 捕獲

2. 経過と考察

表1のとおり、9月9日までに、繰り返し5頭（♂1頭♀4頭）が捕獲できました。

表1 試験捕獲期間の捕獲実績

No.	年 月 日	合計	捕 獲 頭 数				備 考
			♂	♀	♂	♀	
1	6月18日	1		1			GPS装着放獣
2	7月28日	1		1			
3	8月5日	1		1			
4	8月18日	1				1	GPS装着放獣
5	9月9日	1				1	GPS装着放獣
合 計		5		3	1	1	3

設置場所の選定やトリガーのセットなどは、誘引餌に食い付く個体等を十分に確認する必要があり、今回、自動撮影装置や専門家の協力を得ました。捕獲に当たっては、生息・利用域等の生態や狩猟に関する知識を習得しておくことが、捕獲効率を高め、効果的な個体数管理に貢献するものと考えます。

囲いわなの費用は10万円となり、想定外の部品数（650個）と重量（115kg）になりました。このことは、現地での組み立が煩雑となり、2～3人で3時間以上を費やしました。また、設置場所を移動する場合は、厳しい状況です。今後の課題となりました。

おわりに

引き続き捕獲調査の検証を行うとともに、囲いわなの可搬性を高め、農林家がより扱いやすいように改良するとともに、次期林業地域での捕獲調査計画を実施したいと思います。

【引用・参考文献】

- 1) 遠藤晃ほか4：哺乳類科学「シカ用生け捕りワナEN-TRAPの試作・適用」(2000.12)

◆内容に関するお問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター森林林業研究所
 森林環境担当 三宅 裕司
 TEL 088-632-4237 FAX 088-632-6447